

にいがた在宅ケアネット研修会

# 事例検討 行動心理症状（BPSD）への アプローチ

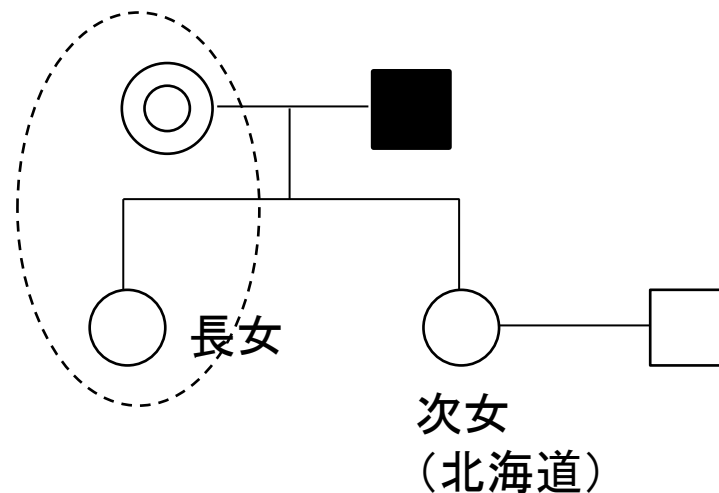
# 症例：BPSDを伴うアルツハイマー型認知症

## 《患者背景》

- Aさん 84歳 女性

## 《家族背景》

- 夫は20年以上前に他界。
- 子供は娘が2人。次女は北海道に嫁いだ。長女は独身、介護離職をしている。同居してほぼ一人で介護にあたっている。



《家族構成》

# 症例：BPSDを伴うアルツハイマー型認知症

## 《生活背景》

- 以前は夫婦で自営業（染物屋）を営んでいた。

## 《社会的状況》

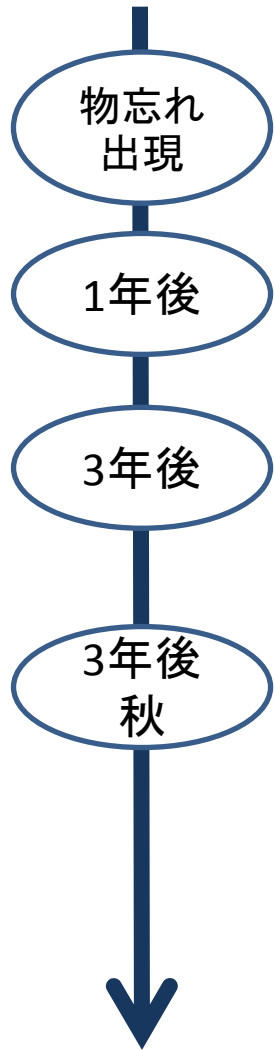
- 年金は国民年金（月額4万程度）。
- 夫の遺産や長女の預貯金を切り崩して生活している。
- 介護保険は未申請。
- かかりつけ医なし。
- 持家の1階で生活している。

## 《相談者（長女）の希望》

- 興奮が強く落ち着かない、夜も眠れず、食欲も落ちている。  
どのように対応したらよいか相談したい。

# 経過①

## 《6年前から現在までの経過》



- X年頃より物忘れがあり、時々つじつまが合わないことがあった。
- X+1年頃より物忘れがひどくなった。
- X+3年、1人になると不安感が強くなった。長女の姿が見えないと、すぐ名前を呼ぶようになり、片時も離れられない状況になった。長女は介護離職した。
- X+3年秋に専門病院を受診し、アルツハイマー型認知症と診断され、塩酸ドネペジル:(アリセプト<sup>®</sup>)を処方されたが、以後、本人の拒否も強く、通院は中断している。

# 経過②

6年後

- X+6年頃から不安感が増し、夕方暗くなると落ち着かなくなり、「怖い」「家に帰る」と興奮するようになった。  
長女が「ここがお母さんの家よ。」という、「そうやってごまかそうとする。だましにはのらない。」と言う。
- 興奮するとお腹をさすり、「はあはあ」と呼吸が苦しそうになる。
- 食欲もあまりないようで、バナナ少しとおまんじゅうを食べている。
- 最近では夜3時間ぐらいしか眠らず、昼夜逆転。長女がほとんど眠れていない状況が続いている。

このような状態で長女がみなさんのグループに相談に来ました

# グループワーク

Aさんの行動心理症状とご家族の生活困難について、どのようにアプローチしたらよいのでしょうか？

## 《ディスカッションのガイド》

- ①グループで課題の整理を行ってください。
- ②課題に対し、それぞれの専門職の立場で行えることについて考えてください。
- ③グループで「何から支援していくのか」という視点で支援の流れを確認してください。

自己紹介の後、司会・書記を決めてからはじめてください